

別紙様式3

平成29年度 第1回 岐阜県立池田高等学校活性化協議会 議事要旨

日 時	平成29年6月15日(木) 13:30~15:30
場 所	池田高等学校 会議室
出席者 (敬称略、 50音順)	飯 田 静 世 神戸町子育てボランティア団体代表 小 川 幹 雄 神戸町立神戸中学校長 岡 崎 和 夫 池田町長 岡 崎 眞 治 太陽工業(株)常務取締役 国 枝 慎太郎 岐阜県議会議員 国 枝 磨須美 池田町教育長 小 林 月 子 サンビレッジ国際医療福祉専門学校長 須 原 政 博 岐阜県立池田高等学校同窓会長 西 川 菊 雄 池田町上田区長 野 原 恵 子 元池田高等学校育友会役員 藤 井 弘 之 神戸町教育長 牧 村 範 康 岐阜県議会議員 松 岡 政 美 池田町商工会長 山 川 実 岐阜県立池田高等学校育友会長 吉 田 秀 慈 池田町立池田中学校長 若 園 伸 和 神戸町総務部長(神戸町長代理)  野 畑 伸 芳 岐阜県立池田高等学校長 藤 吉 和 彦 岐阜県立池田高等学校教頭

議事概要	<p>1 事業の趣旨について(学校より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数は平成元年をピークに減少を続け、本校も平成元年度に1学年11クラスあったのが、平成19年度に4クラスへと減少し、そのクラス数が現在も続いている。今後予想される生徒減少を受けて、県は平成27年度に高等学校活性化計画策定委員会を立ち上げ、活性化に向けて検討を行い、本校は小規模化が予想されるグループ2に名前が挙げられた。当面、単独校として地域と連携し、生き生きとした活力ある学校作りに取り組んでいくことが求められている。</li> <li>・出身地別入学生徒数の推移については、地元からの入学率が75.6%へと増加し、地域に根差した学校として、より地元志向が上昇している。</li> <li>・過去5年間の進路状況は4割前後が四大に、3割前後が短大に進学しているが、看護・医療系への進学率が高く、これは卒業生全体の2割に達する。それに加えて福祉・幼児教育系等は、地元に戻って就職・活躍する生徒が多いのが特徴である。地元を根を下ろし、リーダーシップを取って地元を支えていく生徒を育てる学校にしたい。</li> </ul> <p>2 本校の教育活動と活性化に向けた取組について(学校長より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の目指す「生徒一人一人を大切にし、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するユネスコスクール」についての説明、及び、学校理念である「Global Welfare(地域・国際社会の中でよりよく生きる)」についての説明</li> <li>・『生徒の夢を実現する学校』 本校が推進する「キャリア教育・進路支援の充実」に向けての取組について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>◎学習状況や進路目標に合わせた一般クラスと習熟クラスの編成</li> <li>◎国語、数学、英語での分割授業によるきめ細かな指導</li> <li>◎「スタディサプリ」を利用した家庭での自主学習の充実</li> </ul> </li> </ul>
------	---

	<p>◎自分の夢と向き合う様々なキャリアガイダンスの展開 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざし、地元を支える人材育成に向けて</li> </ul> <p>◎池田町キャリア教育プログラムの実施</p> <p>◎資格取得の助成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池田高校の3つの挑戦について</li> </ul>
--	---

	<p>3 校内参観：次の4か所を参観</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年4組授業参観（古山教諭、数学A：場合の数と確率）</li> <li>○県材を使用して新しく木質化された図書館</li> <li>○新型コンピュータが配置された情報教室</li> <li>○改修工事完了後の体育館</li> </ul> <p>4 意見交換</p> <p>テーマ：「地域と連携し活力ある池田高校にするための取組について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池田高校の授業が変わったことを実感している。保護者の関心は卒業後の進路先であるが、池田高校の現在の取組や成果が十分に認知されていないのが現状である。私立高校に対する保護者の意識変化は、保護者に向けた地道な取組による。保護者へ学校のよさをアピールし、いかに意識改革を図るかが学校の方向性になるのではないかと。</li> <li>・先生方が元気でやる気に溢れていることを実感した。10年後には現在ある仕事の半分はなくなるといわれている（オックスフォード大学のマイケル・オズボーン教授）が、人間でなければできない仕事が多い医療系の仕事は残る。その分野に関心のある生徒が増えていることは、池田高校の果たす役割は大きいと心強く感じた。そういった分野で地元に戻ってくる人材を育てることは地域の豊かさに繋がるのではないかと。</li> <li>・4年目に来校した時と比べると生徒も先生も大変生き生きとしており、本当に学校が活性化しているのを感じる。ボランティアの挑戦として、子育て・デイサービス支援では、本校の生徒たちにお世話になっており、とてもありがたい。本年度は更に幅を広げ、神戸町と池田町が一緒になって活動展開できるとよいと考えている。</li> <li>・この先の少子化は免れない事実であり、その中でどの様な特徴を出していくかが今後の課題である。明確な解決策を探り、実りある活性化協議会にしていく必要がある。</li> <li>・生徒が地域の人々と活動し、活躍してくれるのはありがたい。「ハリヨ池の外来種の駆除」や「ほたる祭り」の水質検査等で若い力を発揮してくれている。子どもにとって憧れのお兄さん・お姉さんとなり、繋がりを持って池田町と連携して活動していけるとよい。子どもたちの意見を取り入れ女子の制服を新しくしていくのは斬新である。</li> <li>・過去に最大11クラスあったのが、4クラスに減っていると説明があったが、空き教室の活用法について教えてほしい。</li> </ul> <p>（学校より回答）</p> <p>○様々な分割授業が実施されており、5人で実施する授業も展開されている。他校では教室が足りず、理科の講義室、実験室まで使用している状況と比べると本校は余裕がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親へのPRが重要であるが、そうなると30代の女性をターゲットとしたパンフレット作りや学校へ招待するなどのプロデュースが大切になる。テレビなどで活躍の池高の有名なOBを上手くパンフレット、映像、ネット、SNS等で利用するなどしてはどうか。学校として活性化に向けて考えておられる次の手があれば教えてほしい。</li> </ul> <p>（学校より回答）</p> <p>○同じような公立高校同士が単独ではなく、共同してPR活動を展開していきたい。現状は教員数に限りがあり、放課後のPR活動も物理的に厳しいため、是非地域で公立高校を盛り上げていただけるとありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2度目の訪問であるが、授業・施設がよくなっているのを実感した。神戸中学校も入</li> </ul>
--	--

学者が減少しているが、池田高校の良さをアピールするため、「学校説明会」や「卒業生と語る会」等でサポートしていきたい。地域の祭りで本校の神戸中学校卒業生が活躍してくれており、いままで以上に高校生がサポートしてくれる場を増やしたい。

- ・昨年初めて卒業式に参加させていただいたが、生徒がたいへんしっかりしており感動した。就職や進学結果が求められていることは、普通科高校の使命でもある。特色を出すために、普通科に加えて今後は専門的な学科やコース（医療・福祉・看護）の設置なども考えていく必要があるのではないか。
- ・隣接学区の岐阜地区からの呼び込みが少ない気がする。医療や介護の専門性を鮮明に打ち出すことで、大学・専門学校との連携がよりはっきりして、PRがし易くなるのではないか。単位制については、どう考えているかを教えてほしい。

（学校より回答）

- 単位制高校にすることで多様な進路志望に応じた授業が開講でき、結果として教職員の増員が見込めるため、そこも検討するところではある。今年は先進校の視察・取組の研究をすすめていく。
- ・学校を保護者に見てもらうのが大切である。池田中学校から池田高校へ、そして大垣女子短大に進学して、保育士や看護師・保健師になりたいという希望も多いと聞く。大垣女子短大看護学科が四年制大学に変わりをきっかけに、大学と連携を図るなどすれば、保護者もある程度先を見通して安心して子どもを送れるのではないかと。

## 5 まとめ

- ・本日のご意見をまとめると、本校の1つ目の課題は、普通科高校としてどのような特徴を出していくかである。本校の立ち位置は、普通科高校の中では中位に位置するがゆえに、魅力となる特徴を積極的に作る必要を痛感している。ご提案いただいた看護・医療の大学や短大との連携を図ることについても前向きに検討してみたい。
- ・2つ目の課題は、保護者（特に母親など）へのPRをどう展開していくかである。昨年、赤坂中学校の保護者が観光バス1台で学校見学に来てくれた。その際の母親へのPRが、今春の入試で数となって現れた。ご助言いただいたパンフレットの作成を参考に、具体的な広報を早速進めたい。
- ・今後も学校運営については、職員一丸となって努力をしていきたい。一方で、教師の働き方の改革も喫緊の課題であるので、SNSの活用や複数の学校が協力してPR活動を展開するなど、様々な知恵を絞っていきたい。地域で皆さんの笑顔をつくりながら、仕事に生きがいをもち、社会を明るくしてくれる人づくりをしていきたいという基本的な姿勢は変わらない。本日お集まりの皆様には大変お力添えをいただいております。様々なイベントにおいて活動の場を提供していただいている。池田高校が、そして地元が反映していけるよう、是非ともご協力をお願いしたい。

（教育総務課長より）

- ・県内各地で少子化が進んでおり、G1は昨年度、池田高校を含むG2は今年度から議論を始めてもらっている。単独で継続していけるような魅力や特色を出すために、高校や地域が連携を図りながら推し進めていくのがこの会の意義である。地域と生徒がお互いに必要とされる関係をより深めていくことが大切である。池田高校の強みを出すために、在校生に本校を志望した理由についてアンケートを行うことも有効だと思われる。私学は個別に各中学校にPR活動を展開しており、それが結果として表れてきている。地元PTAにアピールすることが大切である。G1で行っているような共通のパンフレット作成や共同説明会を県としても援助していく。周辺中学校へもどうアピールしていくのか一緒に考えていきたい。